

センター通信



オレンジのバラ

『察する』という文化

伊丹市立伊丹高等学校

生徒会長 菅原 菜佑

私は日常生活を送っていると、日本には『察する』ことを要する場面が多いなと感じます。これは島国という特徴や、長い間鎖国をして独自の文化を築いてきた日本ならではのものと強く思います。

特に言語の面では『察する』という文化が顕著に表れています。例えば「大丈夫です」という言葉です。みなさんも日常生活の中で多用しているのではないのでしょうか。しかし「大丈夫です」を英語に訳すとなると、その場面ごとに異なるフレーズになります。何か問題が起きた後の「大丈夫です」は“I'm fine.”や“I'm OK.”、一方で「〇〇は必要ですか」と聞かれて断りたいときの「大丈夫です」は“No, thank you.”や“I don't need that, thanks.”などとなります。ここで私が感じるのは、日本語では「大丈夫です」の一言で済ませてしまう状況でも、英語では感謝を添えたり、相手への敬意をきちんと払っていることです。

私は日本の『察する』という文化は、日本人の国民性と長い歴史の上に成り立っていて素晴らしいと感じる一方、「なぜここまで『察する』ことを求めるのか」と疑問に思うこともあります。私は空気を読むことが苦手で注意を受けることがたびたびあり、そのたびに反省すると同時に「なぜ曖昧な表現を正しく解釈しないといけないのだろう」と戸惑います。便利であるはずの『察する』という文化が、時には人を苦しめたり不安にさせたりする側面を持っているのではないのでしょうか。

私は、インターネットが大きく発達し続け、世界中の人とのコミュニケーションを必要としているこの時代だからこそ、日本語の『察する』という、相手の気持ちを推し量る行為だけに頼らず、英語のようにひとつひとつの言葉や感情を大切に表現していくことが必要だと考えます。とはいえ、長年の言語習慣をすぐに変えることは難しいでしょう。ですが、英語表現に倣って、日常の中で「ありがとうございます」「助かります」といった感謝の言葉を意識的に使うだけでも、相手との関係はより温かいものになるはずです。

私は生徒会長として、多くの人と関わる機会があります。そのたびに「察してくれるだろう」と思うのではなく、自分の気持ちを伝えることを大切にしています。相手に任せてしまうのではなく、言葉にして伝えることが、互いの理解を深め、誤解を減らすことにつながるからです。私は、日本語特有の柔らかさや温かさを大切にしながらも、相手に感謝や意図を明確に伝える努力を重ねていきたいと思っています。そしてこの姿勢が学校生活や地域社会をより良いものに導く小さな一歩になると信じています。

第2回 愛護補導連絡会

9月5日(金)を皮切りに、各小学校区の愛護補導連絡会が随時開催されています。

この連絡会の目的は「少年補導委員、PTA愛護部と関係機関の連携を目的とし、地域の子どもは地域で守り育てるという観点に立ち、地域ぐるみの環境浄化や補導活動（『愛の一声』運動）を推進する」です。

年2回開催し、参加者は主に各小学校区の少年補導委員、PTA愛護部員、主任児童委員、各小・中学校教職員、少年愛護センター職員等です。

各校の課題に応じて、テーマはインターネット関連、自転車のマナーや家庭教育についてなど多岐に渡り、情報交換の他、講師を招聘しての研修会、DVDを視聴しての学習会が実施されています。

今後も、こうした取組みをより充実させ、未来を担う子どもたちを見守り、健全に育成に努めていきます。

【子どもと保護者のなやみの相談】

問題行動、しつけや子育て、不登校等、子ども・青少年に関する様々な相談に応じます。

- ・ 電話相談 ☎ 072-770-8742
- ・ 来所相談 ☎ 072-780-3540（事前予約制）
- ・ メール相談 ✉ aigo@itami.ed.jp

【保護者の方からの申し込み】

不登校、ひきこもり、いじめ、こころの相談に応じます。



- ・ 電話相談 ☎ 072-772-6171
- ・ 教育相談・特別支援教育相談（発達相談）
- ことばの支援教室 臨床心理士・言語聴覚士との相談 ☎ 072-780-2484

【学校園を通じての依頼・申し込み】

- ・ アウトリーチ型の相談活動
- ・ 医療心理相談・医療発達相談
- ・ 教育支援センター「やまびこ」
- ・ 「メンタルフレンド」

9月補導活動	幼児 小学生	中学生	高校生 その他	大人
あいさつ	1 8 8 0	1 3 5	5 2	3 5 6
声かけ/会話等	2 2 9	4 2	2 7	9 3
(内) 遊びに関して	1 3	1 4	4	5
問題 交通に関して	0	0	4	1 1
行動 その他	8	8	3	3

相談件数

電話相談	1 件
来所相談	4 件
メール相談	2 件

有害図書回収状況

有害図書	1 0 5 冊
有害AV等	9 7 枚

A I が活用され、いつの間にかフィルターバブルの中・・・

【フィルターバブル】A I が活用され（猫好きの人が、ある日猫の動画を見ると、次からそのアプリを開くと猫の動画ばかりをお勧めされてしまうように）SNS等には、自分が知りたい情報が優先して表示される状況を「自分好みの泡の中にいる状態」フィルターバブルと表現します。

【エコーチェンバー】SNSでは、好きなことや意見が似ている人同士が繋がりがやすくなっています。そのことを忘れて、SNS上で見聞きする意見をあたかも「世の中のほとんどの人が同じ意見を持っている」と感じることをエコーチェンバー現象と言います。

SNS環境で起こるエコーチェンバーに対して、フィルターバブルは情報検索の環境で起こる現象です。

新聞やテレビ等で目にする情報は全員が同じ情報です。しかし、個人がネット上で目にする（フィルターバブルやエコーチェンバー）状況下の情報はまちまちで、その人自身の興味や関心と異なる情報や意見に触れにくく、存在に気づかないこともあります。最近、ネット情報が自身の「常識判断材料」になっていることはありませんか。もちろん、ネット情報も判断材料の一つとなりますが、その情報や意見は自分好みに応じてカスタマイズされていることを知った上で、ネット上での情報や意見を冷静に判断し、振り回されないようにしたいものです。

ひょうご防犯ネット情報（9/1～9/30 掲載分）

日	時刻	場 所	事 案	概 要
				－ 行為者確保・警告等があったものには☆印 －
7	18:20	昆陽南4	つきまとい	徒歩で通行中の女子中学生に対して、男が徒歩で無言のままつきまとった。
11	21:00	荻野7	露出事件	徒歩で通行中の成人女性が、下半身を露出した男を目撃した。
17	18:20	南町2	不審者	男が、公園で遊んでいた小学生等をジロジロと見ていた。



7(火)	伊丹市少年補導委員連合会 役員会・定例理事会 広報啓発活動（鴻池・神津・瑞穂）	20(月)	有害図書回収
9(木)	一斉補導活動（笹原・桜台）	24(金)	第58回兵庫県青少年補導委員大会・研修会「三木大会」
10(金)	伊丹市少年育成協会 常任理事会	(随時)	街頭補導活動（各小学校区）
17(金)	繁華街特別補導活動（伊丹・緑丘・昆陽里）		中学校区内補導活動（各中学校区）
			電話・来所・メール相談（愛護センター）

「センター通信」へのご意見ご感想を、伊丹市立少年愛護センター（TEL072-780-3540）までお寄せください。